



## 『私と心理学との出会い』

袖ヶ浦市立総合教育センター 教育研究指導員  
林 響子

みなさんは神戸連続児童殺傷事件を覚えていますか？1997年、当時14歳の中学生が11歳の小学生を殺害した事件です。被害者と同じ小学5年生だった私は、とても大きな衝撃を受けました。と同時に、その時初めて「犯罪心理学」という専門分野があることを知りました。これが、私と心理学との出会いです。

その後も心理学への興味が薄れることはありませんでした。大学でも臨床心理学を専攻し、6年間一生懸命学んできました。けれどもこの1年間勤務してきて、子どもたちへの接し方は教科書通りにはいかないことを痛感しています。

- 先週まで元気よく来ていた子が、ぱったりこなくなる。…え？私の対応ま  
ずかった？
- 今まで元気よくはしゃいでいた子が、いきなりしんみり泣き始めちゃった。…とにかく、落ち着いて話を聞かない！
- 相談中に固まっちゃった。…ん、どうしよう。こういうときはどうすればいいんだっけ？

日々、試行錯誤の連続です。

そんな中、「先生、ありがとう」と言われたとき。自分がかけた言葉で、相手の表情がゆるんだとき。「センターにずっといたい」と言っていた子が頑張って学校に行くようになったとき。昼夜逆転の生活を送っている子が、「今日は8時に

起きた」と自慢げに報告してきたとき。そんな姿を見ていると、「ああ、この子を学校に戻してあげたいなあ」と強く願うのです。

しかし、あくまで私はこの子どもたちと学校とをつなぐ架け橋の役目をしているに過ぎません。学校が「センターに預けているから安心」では、子どもたちはいつまで経っても学校に目が向きません。センターは学校に戻すための中間施設なのです。学校にいつでも戻って来られるような、そんな環境づくりを学校にしてもらいたいのです。情報共有もどんどんしていきたいものです。子どもが笑顔で学校に戻れるように、一緒に取り組んでいきたいと思っています。

どうしていいかわからなくて困っている自分に方向性を示し、守ってくれる人。それが臨床家としての私の使命だと思っています。どうして不登校が続いているのか、それをきちんと分析する。その上で、その子にあった対応をする。「エネルギーが足りない」と一言で片付けるのではなく、何が問題で、何に困っているのか、具体的にそれを整理してくれる人が子どもたちには絶対に必要だと思うのです。

私は心理学に出会えて本当に良かったと思っています。まだまだ未熟ですが、少しでも子どもたちの支えになりたいと、1年前よりも強く感じている今日この頃です。

# 心と体を一体としてとらえる体育指導の充実にむけて

体育振興課 久島典子

児童生徒が『よりよく生きる』過程としての体育指導に着目していくと、体育が人間形成に大きく影響し、それが個々の生きる力の礎となっていくということが理解できます。

教育基本法の改正で「道徳心を培う」ことが「教育の目標」になり、それを受けて改訂された「学習指導要領（小・中学校）」では、各教科においても道徳教育に関連する適切な指導が求められ、体育であれば集団のゲームや運動をとおして育まれる、協力、自立、信頼、互助、規律等の道徳的価値も指導のポイントとして位置づけることが大切になります。

本年度9月に開催した「中学生ソーラン交流会」での各中学校による指導を通して、「豊かな心」と「健やかな体」を一体としてとらえて指導することの教育的価値の高さを改めて学びました。

以下にこの取り組みから見えた指導のポイント3点に絞り記載します。各校の日々の体育実践の振り返り等で少しでも参考としていただけたら幸いです。

## 1 「中学生ソーラン交流会」開催を通して得られたこと

- ・仲間や教師とともに、自分の力を最大限に発揮した演舞と発表。  
→集中と徹底・最高の技能、態度、体力・自ら得る感動と自信
- ・総勢 687 名の規律正しい行動と、時間通りの全体進行。  
→指導者、仲間、自分との絆・ルール厳守・リーダー育成の成果
- ・体育祭の成功。集中力・忍耐力で取り組む生徒の姿と人間的成長。  
→逞しい心と体・共に称えあう姿・「生きる力」の具現化



常に靴を揃えることへの意識づけ

## 2 各中学校の取り組みから見えた指導のポイント

### (1) 態度教育～聴く姿勢～

交流会大成功の要因は、日ごろの学校教育活動全体を通じて行ってきた態度教育の積み重ねだと思えます。挨拶、履物を揃える、身だしなみを整える…様々あると思えますが、その中でも、聴く姿勢はその最たるものでした。

どの学校も生徒が目だけではなく、耳も心を傾けるよう指導されていて、個々の責任感や、相手を尊重する気持ち、集中力を体現していました。「聴くこと」は、役割の遂行、安全、協力…等、学ぶ基本であり、生きる力の根幹だと再確認しました。



話を聞く姿勢の徹底

### (2) 言語活動の充実と心の育成

#### ①語り

どの学校でも、指導者も、生徒リーダーも、とにかくよく語っていました。語りには指導者の単元観、指導観等々…教育愛があふれ、その限られた時間で何を求めるかが明確でした。語りで生徒の目や意識が変わりました。リーダーの言葉には、先生方から日々学んだことが表れ、また、子どもにしかないまっすぐな気持ちが全生徒の心を束ねていました。情熱ある言葉が全員の心をうち、仲間や後輩の語る力となる…熱い「語り」が心とリーダーを育てていました。

#### ②評価

充実した指導と一体となった評価は、生徒の技能や思考力、知識、心…等々、生徒のあらゆる学びを深めていました。

特に先生方の評価をだけではなく、生徒間の相互評価を一言一句聞き漏らさずに、良い言葉、ひらめき、発想、気づきを取り上げ、褒める、称えあう時間を大切にしていました。

活動時間を充実させるため、わずか3分程度の時間でしたが、個々の心に「共に高めあう、共にうまくなる」という意識を刻むという小さな積み重ねが、交流会大成功という大きな成果を生んだのだと思えます。



他校の演舞から学ぶ（価値判断）

# 小学校英語活動のこれからを考えよう!

## ■ 5市(袖、木、君、富、市原)の外国語活動担当者の打ち合わせより

現在、外国語指導助手(以下、ALT)を直接雇用しているのは、袖ヶ浦だけであり、また、小学校35時間すべての授業にチームティーチングとして授業に参加できる環境は大変恵まれていることがわかりました。

他市では、学校で直接指示が出せなかったり、チームティーチングができなかったりと、学級担任が、大変苦労しているということでした。

また、木更津市と合同の「小中連携推進会議」において授業を公開してくれた根形小学校のことに話がおよびました。出張所の指導主事や木更津市の先生方から、学級担任の先生、児童共に、大変高い評価をいただきました。

根形小学校における日々の実践の賜であることは言うまでもありませんが、袖ヶ浦が国の施策に先駆けて、10年前からレインボープロジェクトを立ち上げ、児童生徒を育成してきた結果でもあると思います。

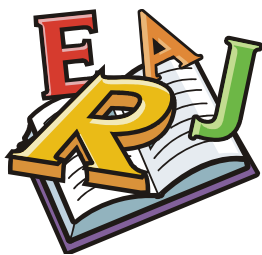


## ■ 全国指導主事連絡協議会 小学校外国語活動部会より

来年度の「英語科関係」の予算は15億円規模です。これは、単一の教科としては「英語」が突出しています。文科省の「英語」に対する強い意志の表れです。

小学校の担任にとっては、「寝耳に水」の英語活動。まさか、自分が英語を指導しなければならないことになるとは思っていませんでした。

周辺アジア諸国では小学1年生から、週3、4時間の英語を習っています。「英語は教えられない」という意識から、「英語を楽しんで教える」という意識改革に迫られています。



今年度使用された「英語ノート」は、来年度廃止となり「Hi Friends!」という新教材が配布される予定です。

豊富な絵カードやデジタル教材で指導できるようになっています。指導書も使いづらいという声が多くあったためか、小学校の他の教科と同じような形式になっています。

文科省も担任一人でも十分指導できるような環境を整えようと努力している跡が見られます。

## ■ 外国語活動の目標は、「コミュニケーション能力」の育成

子ども達が英語を勉強していて、一番「うれしかった!」と回答する場面は、「ALTに英語が通じたとき」です。そのためには、日常生活の中にALTと接することができる環境を整えることも必要です。

コミュニケーションと聞くと「会話ができる」ことと捉えがちですが、小学校では、見たり、聞いたり、話したりとトータルに意思疎通が図れた喜びを体験させたいものです。

先述した根形小学校では、普段からALTと数多く接し、授業で習ったことを授業時間以外で活用する場面が多くあるため、子ども達の達成感を満たしているようです。



【新教材 「Hi, Friends!」 情報はこちら】

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kokusai/gaikokugo/1314837.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1314837.htm)

# 袖ヶ浦市学校図書館支援センターだより

# リーブル

第77号

<発行>

袖ヶ浦市学校図書館  
支援センター  
Tel. 0438-62-2449

## 相田みつをの詩を使って:道徳の授業展開

根形中学校 司書教諭 神谷裕子

「親の心子知らず」ということばがぴったりの子供たちの言動を耳にすることがある。子供には子供の言い分があるが、一番多感なこの時期の子供たちに感じてもらいたい親の思いもある。そこで、相田みつをの詩『子供へ一首』を通じて、親の思いに触れることができればと考えてこの授業を設定した。

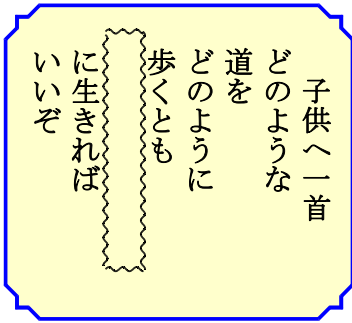
また、読書指導員に家族を取り上げた詩を紹介してもらうことで、詩への興味関心を高めるとともに、家族のありがたさを再確認し、前向きに頑張ろうとするエネルギー源にしてほしいと考えた。

### 授業の流れ

1. アンケートの結果発表。

- ・親に感謝する時
- ・親に腹を立てたくなる時

2. 相田さんの詩を親から子へ宛てた詩(言葉)として活用。



●自分に贈るとしたら。  
生徒が空欄に入れたものを数名紹介

●親から子へ贈るとしたら。

詩の中の空欄に親の言葉を入れてもらい、その言葉に込めた思いや理由などを述べてもらった。

親からのメッセージを聞いて感想を発表。

●空欄に「いのちいっぱい」を入れた相田みつをの詩を音読鑑賞。



3. 家族を扱った詩の紹介(読書指導員の語りで)



星野富弘 『風の旅』 作品名 「みょうが」  
金子みすゞ 金子みすゞ童謡集 『明るいほうへ』『つばめの母さん』

### 生徒の感想

親がどんな気持ちで私を見守ってくれているかわかった。腹を立てたくなることもあるけど、いろいろな思いがあつて怒ったり、注意してくれているんだなあと思った。とても勇気づけられたし、背中を押されるような詩で感謝の気持ちがこみ上げました。

4. 親への手紙を書く。

### わたしの思い出の一冊 (41)

昭和中学校 鈴木 幸男

高校の古典の授業で、「桐壺」「若紫」などの有名な場面を学び、なんて美しい文章なのだろうと思った。そこで、学校の図書館から本を借りて、原文を読んでみた。ロマンチックでちょっぴりイロっぽい世界が、華やかな宮中を舞台に描かれている。書かれてから千年も経つのに、いまだに読み継がれている世界文学史上の奇跡・・・『源氏物語』。もっともこの作品を知りたくて、大学で国語科を専攻した。今も愛読書の一つである。次回は、蔵波中学校の松尾雅子先生をお願いします。



※この三作品は来年度の学校図書館支援センターのポスターに載せさせていただきます。



我が師なり 母の言葉と愛読書

蔵波小 齋藤智史さん

本読めば 未来の自分 変わるかも

昭和 武藤咲さん

思い出の一冊の本道しるべ

中川小 小牧翠玲さん

読書川柳の紹介